「不可能を可能にした男」

篁（たかむら）　笙子（しょうこ）著

携帯電話がケイタイとして企業においても日常生活でも，なくてはならない存在になったのは，利用技術のさまざまな進歩にもその理由はあろうが，本体の小型化や電池の長寿命化が実現できたからであろう。「不可能を可能にした男」は，ケイタイの超薄型ステンレス製電池ケースを，深絞りと言う技術で製品化した世界的職人である，岡野雅行のことである。長時間の使用可能なリチウムイオン電池には，腐食しない金属であることや液体の漏出防止のために完全密閉であること，さらに，内部爆発の恐れを防止するためにケースの厚みが均一で強固であること等が必要であった。これらの条件を完全に満足させるのが，１枚のステンレス鋼板から超精度小型化のケース化に成功した深絞り技術である。一般的にステンレスの機械的加工，特に，精密加工のために必要な冷間加工は難しいことが予想される。さらに，深絞りの技術の利用となると，その加工は困難を極めるであろう。常識的には不可能なことであるが，プレスの加重や潤滑剤等の改善・工夫によって成形を可能にしたのである。岡野にしてみれば，これらの開発は既に過去のものとして，現在は５年先，10年先の新たな製品化を目指して研究中である。彼の応接間で見せていただいた，20μ程度の穴径を持つステンレス製のグニャグニャ曲がるカテーテル状の細い線には驚いた。おそらく，この線の利用範囲はかなり広いと思われる。

私が，岡野の存在を知ったのは４～５年前に工業関係の雑誌に載った紹介記事である。そして，彼に感動したのは，世間も生徒も逃げ出すような零細企業を大企業に負けないようにしたこと，金型やプレス工業の３Ｋイメージをむしろ花形産業にしたこと，常識破りの技術を次々と生み出したこと，また，「誰も望まないような仕事」にも拘らず成功させたこと等である。これらだけではない。「不可能と思われていることを可能にしたこと」。最も喜びたいのは工業界や工業教育に，そして，若者や生徒に「夢」を与えてくれたことであろう。

著者は，工業関係には門外漢であるが，それだけにまた，金型やプレスの技術の基本，岡野の開発した技術の過程や工夫等をわかりやすく説明し，初歩的な技術書としても十分読める内容になっている。また，彼の創造力や研究心などの原動力になったであろう，少年時代から青年時代の日々の生活や生き方等が紹介されている。なお，本書の章立てと，その主な内容は次のようになっている。

プロローグ　プレス金型の魔術師
　世界的職人芸／中小企業の星
第１章　不可能を可能にする技術
　人のやらない仕事／携帯電話の電池ケース／経験により高められた技術力
第２章　小さくて大きな経営戦略
　プラントの販売／大企業との取り引き／研究開発型の町工場／小さいは大きい。
第３章　人こそ宝
　聞き上手／人に育てられる／人を育てる。
第４章　小卒の職人から世界的技術者へ
　働き者の両親／不眠不休の時代／職人芸とハイテクの融合

（メトロポリタン出版，2001年11月，1500円）

（埼玉県立川口工業高校　**風間効**）